

日中労働情報フォーラム

第5回総会議案書

2017年5月13日
日港福会館（東京・蒲田）

<総会次第>

第1部 特別講演（13：30～14：30）

「一衣帯水＝日中関係の4つの基本文書について」 内田雅敏弁護士

第2部 総会（14：50～16：50）

- 1 開会あいさつ
- 2 議長選出
- 3 代表あいさつ
- 4 議事
 - （1）2016年度活動報告について
 - （2）2017年度活動方針（案）について
 - （3）2016年度決算報告、会計監査報告について
 - （4）2017年度予算（案）について
 - （5）役員選出について
 - （6）その他
- 5 議長解任
- 6 閉会あいさつ

はじめに

日中労働情報フォーラムを結成して4年が経過しました。労働組合の活動家に加えて、中国の労働運動に関心をもつ研究者、市民も参加した日中労働情報フォーラムは、いろいろと活動のあり方を模索してきましたが、この間は「日中不再戦の誓いの旅」と中国の労働事情の学習を軸とした活動を行ってきました。

今年は、盧溝橋事件、南京大虐殺から80年、日中国交正常化から45年にあたります。安倍政権は、中国の脅威をあおることによって、軍事大国化の道をすすみ、憲法改悪を目論んでいます。私たちは、過去の侵略戦争の反省の上に立った、平和で友好的な日中関係を築くとともに、中国の低成長社会での安定した労働関係の構築をめざす試みに注目し、日中友好活動を若い人に伝えていく努力をしたいと思います。

<2016年度活動報告>

<2016年度活動方針>

1 事業活動

- (1) 「日中不再戦の誓いの旅」の第2弾として、8月に北京、ハルビン、瀋陽、大連を訪問する旅を実施します。また、国家式典となった南京大虐殺犠牲者追悼式典に毎年参加するように昨年確認しましたので、今年も参加します。これらの「日中不再戦の誓いの旅」に若い人も参加できるよう企画していきます。
- (2) そのため、日中交流助成基金を設立します。若い人で訪中を希望しながら、金銭的に困難な人に、旅費の一部を助成するものです。一口5000円とし、趣旨に賛同する個人、団体に基金を呼びかけます。
- (3) 中国の労働事情、あるいは日中戦争の実相、日中友好の取り組みなどに関する学習会を開催します。
- (4) ホームページを充実し、中国の労働事情に関する発信を続けます。
- (5) 中国労働問題をウォッチしている他の組織との連携を模索します。

2 組織活動

- (1) 会員の拡大を図り、100人の会員をめざします。また、賛助団体を募り、財政基盤を確立するようにします。
- (2) 会員相互の親睦を図る催しを行います。

1 事業活動

(1) 訪中国の派遣

- ① 北京、ハルビン、瀋陽、大連を訪問する旅は、日程調整がうまくいかず、実施でき

ませんでした。

- ② 第2次「日中不再戦の誓いの旅」として、12月13日（南京大虐殺記念日）に合わせて伊藤代表を団長に、福山、前川、松野、平賀（雄）、平賀（萬）、北山の7名が12月11日から15日まで訪中しました。北京では、盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館を見学し、中国国際交流協会と懇談しました。南京では、南京大虐殺犠牲者国家追悼式典参加、記念館本館の見学、キャンドルナイト参加、慰安婦旧所陳列館の見学など、南京に3泊したことにより余裕をもって見学することができました。
- (2) 日中交流助成基金を設立しました。現在176,166円の基金が集まりました。支出はありませんでした。
- (3) 学習会の開催
 - ① 昨年、第4回総会の特別講演として東京の満蒙開拓団を知る会の藤村妙子さんが「東京の満蒙開拓団」と題して講演しました。貧困や経済統制と戦争の問題について考えさせられる話でした。
 - ② 7月28日、中国から早稲田大学に留学している高超さんが「中日労働問題の比較的考察」と題して話をしました。内輪の学習会でしたが、中国人が日本の労働問題をどう見ているのか非常に興味深い話でした。
 - ③ 9月30日、内田雅敏弁護士を講師に「日中友好の展望—三菱マテリアル中国人強制連行事件の和解を経て」と題する講演会を開催しました。35人が参加しました。裁判所は、強制連行・強制労働の実態を認めながらも、国家無答責、時効、除斥期間などの法理、日中共同声明による請求権の放棄などの論理によって、中国人受難者・遺族の請求を退けてきたが、最高裁の付言である「関係者において被害の救済に向けた努力の期待」を踏まえた和解が実現したことの意義を強調しました。
- (4) 日中の歴史認識と中国の労働事情の発信
 - ① 一昨年10月からホームページをリニューアルし、見やすくしました。掲載記事も増えましたが、ユーザー数は1日平均10人程度で増えていません。年間掲載件数は100件になり、会員の投稿も増えてきました。
 - ② ホームページには、中国（香港、台湾を含む）労働運動の最新ニュース、資料として「人民日報」のインターネット配信の日本語版である「人民網」からの抜粋を月2回40件転載しています。さらに、日中労働情報フォーラムの活動、会員からの投稿、中国労働問題の文献紹介などを掲載しています。
- (5) 他団体との連携
 - ① 9月29日、中華人民共和国建国67周年祝賀会に出席しました。
 - ② 村山首相談話を継承・発展させる会が開催した6月17日の「なぜ文明国ドイツにヒトラー独裁政権が誕生したのか?」、12月8日の「12・8開戦の日、今の日本にもう黙ってられない—アジアからの危惧の声を聴き考える緊急集会」に参加しました。

- ③ 2015年11月、戦争被害を語るシンポジウムに参加を予定していた中国人12人に日本政府がビザを発給しなかった事件について裁判が続いています。「ビザ発給拒否・集会妨害裁判を支える会」が発足し、伊藤代表が共同代表のひとりに就任しました。
- ④ 3月5日、河原井さん・根津さんらの「君が代」解雇をさせない会が主催した山邊悠喜子さんの講演会「日本は中国で何をしたのか」に参加しました。

2 組織活動

- (1) 「日中不再戦の誓い」のチラシを集会などで配布しました。
- (2) 東京では、12月27日に忘年会を開催し、会員の親睦を図りました。前段では、山形映画祭参加作品「青年★趙（チャオ）」（試聴版）を鑑賞しました。
- (3) 会員は現在70名です。目標の100名には達しませんでした、少しずつですが会員は増えています。

<2017年度活動方針（案）>

1 事業活動

- (1) 訪中団の派遣
 - ① 第3次「日中不再戦の誓いの旅」として、7月25日～30日に北京、ハルビン、瀋陽、大連を訪問する旅を実施します。
 - ② 第4次「日中不再戦の誓いの旅」として、12月11日～15日に北京、南京を訪れ、南京大虐殺犠牲者追悼国家公祭に参加します。江蘇省教育工会との懇談を計画します。
- (2) 日中交流助成基金は、訪中を希望しながら、金銭的に困難な若い人に、旅費の一部を助成するものです。「日中不再戦の誓いの旅」に若い人も参加できるようにしていきます。また、基金の充実に努力します。
- (3) 中国の労働事情、あるいは日中戦争の実相、日中友好の取り組みなどに関する学習会などを企画します。
 - ① 日中の歴史認識問題を重視して、国内の中国人強制連行の史跡や満蒙開拓団、731部隊などを訪ねる企画を検討します。例えば、花岡鉦山（秋田県）、安野ダム（広島県）、満蒙開拓平和記念館など。
 - ② 日中戦争開始（盧溝橋事件、南京大虐殺）80年に関するさまざまな企画に他団体と協力して取り組みます。
 - ③ 内田雅敏弁護士が企画している「一衣帯水＝日中関係の四つの基本文書」に関するブックレットの作成、販売に協力します。
 - ④ 日中関係の歴史や労働者の現状を知るため、中国映画の上映会について検討します。

- ⑤ 在日の中国人留学生との交流など青年たちとの日中交流活動について検討します。
- (4) ホームページを充実し、中国の労働事情に関する発信を続けます。関連団体や労組にリンクを張ってもらうなど、ホームページに訪れやすくして、アクセスを増やすようにします。
- (5) 中国進出日系企業の労働問題をはじめ、中国労働問題の理解と連帯を深めるために中国問題をウオッチしている他の組織との連携を模索します。

2 組織活動

- (1) リーフレット「入会のお誘い」の改定を行います。
- (2) 当会の周知と会員の拡大を図り、100人の会員をめざします。また、賛助団体を募り、財政基盤を確立するようにします。
- (3) 会員相互の親睦を図る催しを行います。

以 上